

英語教育の中の英語文学

－総合的な学習の時間との関連から考える－

加 島 巧

English Literature and English-language Teaching — With Reference to the Period of Integrated Study—

KASHIMA Takumi

Abstracts

Every university that has a teacher training course was required to modify the contents of the subjects and course descriptions according to the guideline shown by the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT). In order to maintain the teacher training course from 2019, a written application was sent to the MEXT in April 2018.

One of the changes shown in the guideline was the introduction of the concept of a core curriculum. By changing the content of the classes following the core curriculum, every university can offer a common level of content.

For this paper, an American English Literature class was selected and it showed how our institution altered the content of the subject. In addition, how to combine an English literature class with a Period of Integrated Study, which is newly established class, was demonstrated.

キーワード：英語教育、英語文学、総合的な学習の時間、教職課程

1. 序

平成29年度（2017年）に教職課程を持つ大学は、平成31年度（2019年）からの教職課程を継続するために、課程の再申請を行った。教職課程の再申請にあたり、教職課程の枠組みの大幅な変更と、それに伴う科目の変更や新設が行われた。

平成31年（2019年）4月からの教職課程の認可を受けるにあたり、大きな変更点は、従来の「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の大幅な組み替えである。¹また、今回の教職課程の再課程申請に際し、検討しなかったことは、全ての大学の教職課程で共通的に修得する教育内容である教職課程コアカリキュラム²であった。これまで教科に関する科目に含まれていた「英米文学」は、「英語文学」の領域に変更になったのだが、この小論では、それに属する科目から「英語文学研究演習Ⅰ」を取り上げ、本学が教職課程の再課程申請をするにあたり、どのように検討したのかを授業内容とともに紹介する。最後に、「英語文学研究演習Ⅰ」で学んだことを「総合的な学習の時間」を指導する際にどう活かすかを考えるために一つのモデルを紹介することとする。

2-1. 「英語文学」のコアカリキュラム上の位置づけ

中学・高等学校教員養成課程における「外国語（英語）コアカリキュラム」は、1. 「英語科の指導法」として8単位程度、2. 「英語科に関する専門的事項」として20単位程度を設定しなければならない。そのうち、2. 「英語科に関する専門的事項」の領域には、1) 英語コミュニケーション、2) 英語学、3) 英語文学、4) 異文化理解の4つが含まれる。そして、それぞれのコアカリキュラムによって【全体目標】、【学習内容】が規定され、【学習内容】には、学習項目と到達目標が含まれる。ここでは、英語文学を示すことにする。³

英語文学

【全体目標】

英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。

【学習内容】

◇学習項目

- ①文学作品における英語表現
- ②文学作品から見る多様な文化
- ③英語で書かれた代表的な文学

◇到達目標

- 1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。
- 2) 文学作品で描かれている、英語が使われている国や地域の文化について理解している。
- 3) 英語で書かれた代表的な文学について理解している。

2-2. 「英語文学の構成と英米文学」

平成30年度までの入学生は、「英米文学」のくくりの中に、次の4科目を配置していた。（②は2科目選択必修を表す。）

- ②英米文学入門Ⅰ
- ②英米文学入門Ⅱ
- ②英米文学研究演習Ⅰ
- ②英米文学研究演習Ⅱ

それを、今回は「英語文学」のくくりの中を次のようにした。（○は必修）

- 英語文学研究入門Ⅰ
- 英語文学研究入門Ⅱ
- 英語文学研究演習Ⅰ
- 英語文学研究演習Ⅱ

以下、英語文学研究演習Ⅰを基に論を進めることにする。

2-3. 英語文学研究演習Ⅰで扱う児童文学、ルイス・サッカーの *Holes*

2-3-1. 作家と作品

Holes はアメリカの Louis Sachar が1998年に書いた児童文学である。翌1999年にはニューベリー賞を受賞した。この本の出現は、全米を揺り動かした「事件」であったと訳者が書く程、多くの読者に読まれた。そして、その「事件」はいまだに続いている。⁴それは、国を超え、世代を越えて読み続けられることで証明されていると言えよう。以下にあらすじを記す。

主人公 Stanley Yelnats IV はついてない。学校ではいじめられている。スタンリーはちょっと太りすぎの男の子なのである。その所為で、数学の Bell 先生にも教室で恥ずかしい目にあわされている。でも、明るいのだ。お父さんは発明家であった。発明家には、「1. 頭のよさ 2. 根気 3. ちょびっとの幸運」の3つが必要なのだが、3つめの項目が欠けているので、実験も上手くいかない。おじいさんも一緒に住んでいる。この一家は、息子が生まれると、代々 Stanley Yelnats という名前がつけられる。この3人は、には、もう一つ共通点があった。希望を失わないこと。不都合なことがあると、3人は「あんぽんたんのへっぽこりんの豚泥棒のひいひいじさん（主人公から見ても）」の所為にする。（この豚泥棒のひいひいじいさんは、ヨーロッパのラトビアからの移民である。ラトビアでマダム・ゼローニに呪いをかけられてしまった。）しかし、呪いをかけられたことはその子孫は知ることはない。（そのことは、我々読者だけが知り得る特権である。）お母さんは、そんな時に、「初代のスタンリー・イエルナッツは負け犬ではない」と力説するのであった。ひいじいさんは、「あなたにキスのケイト・バーロー」に全財産を奪われたのだが、,,,,,,。その Stanley Yelnats IV は学校でいじめにあっていた。警察に逮捕された日も奪われたノートを取り戻そうとしたばかりにスクール・バスに乗り遅れてしまったのだ。学校から歩いて帰る途中に、大リーグの有名選手 Clyde Livingstone のスニーカーを盗んだ罪で逮捕され、Camp Green Lake（グリーン・レイク少年矯正キャンプ）に送られた。そこでは、所長の基、二人の相談員の指示で、毎日直径1.5メートル、深さ1.5メートルの穴を一個掘ることが課せられるのであった。Stanley Yelnats IV はDテントに所属することになる。そこで色々な経験をすることになる。なにせ、このCampに送られてくる少年達は、一癖も二癖もあるのだから。毎日一番早く穴を掘り終わるのはZeroと言う少年であった。このZeroという少年の名前は、Hector Zeroni という名前であることがわかる。親子五代に亘る物語。そこに複雑に絡まる伏線。ラトビアでかけられた呪いは、主人公が Hector Zeroni を助けることで解けるのだ。⁵

2-3-2. 作品で扱うアメリカ文化

ここで *Holes* の登場人物関係図を描く事とする。現在を仮に、2000年とすると、作品中には、「今を去ること110年前」との描写が23章にあるので、Stanley Yelnats が Kissin' Kate Barlow に身ぐるみ剥がされたのは1910年頃とした。⁶

場所：ラトビア アメリカ

Elya Yelnats——Elya Yelnats (1860－?) (アメリカ生活は1875年から?)

(1860－?) (15才) | ——Stanley Yelnats (1890－?)

Sara Miller | ——Stanley Yelnats II (1925－)

看護婦 | ——Stanley Yelnats III (1955－)

| ——Stanley Yelnats IV

Mother⁷ (1985－)

Madam Zeroni —— son —— ? —— ? ——

Myra Menke(14才) | ——Mother

Igor Barkov (57才) | ——Hector Zeroni

Charles Trout Walker

| —— ? —— Warden (Ms. Walker)

Linda Miller

Katherine Barlow—Kissin' Kate Barlow

(1865－1890) (1890－1910)

Sam

アメリカの歴史1

②1636－1769

⑥1863

①1620

③1776

⑤1861－1865

⑦1876

④1840－1869

⑧1890

①：メイフラワー号に乗ったピルグリムファーザーズがマサチューセッツ州プリマスに到着

②：1776年までにアメリカ東海岸に九つの大学が設立される。⁸

③：アメリカ独立

④：移民のピーク

⑤：南北戦争

⑥：奴隷解放宣言

⑦：Baseballの誕生、アメリカ建国100年

⑧：黒人に対するリンチのピーク⁹

アメリカの歴史2 公民権運動関係

⑥1963年5月

①1876 (－1964まで)

④1955年12月1日

⑦1963年8月28日

②1896

③1929 (－1968まで)

⑧1964年7月2日

⑤1957年

- ①：Jim Crow の法律
- ②：「プレッシー対ファーガソン裁判（Plessy v. Ferguson）アメリカ最高裁判決」（分離すれど平等）
- ③：Martin Luther King 生まれる
- ④：ローザ・パークス事件
- ⑤：リトルロック高校事件
- ⑥：アラバマ州バーミングハム放水事件
- ⑦：ワシントン大行進
- ⑧：公民権法成立

2-4. Holes の授業計画 2. 1に加え、2-3-2との関連

2-1. で示した「英語文学」に加え、2-3-2. の人物関係図とその次に示した「アメリカの歴史1」と「アメリカの歴史2 公民権運動関係」の年表を重ね合わせることで、「英語文学研究演習Ⅰ」では、次のような授業計画を作成した。

授業科目名：英語文学 英語文学研究演習Ⅰ

授業の到達目標及びテーマ

アメリカの児童文学を代表する作品を英語で鑑賞する。文学作品の理解に加え、その作品が書かれた文化的な背景についての理解を深める。教職課程履修者は、この授業で学んだことを中学校・高等学校での英語教育の現場で生かせるようにする。この授業では、ニューベリー文学賞を受賞したルイス・サッカーの作品を集中的に読み解くことで、作品に描かれた独立から現代までのアメリカの歴史や文化についての理解も深める。

授業の概要

ニューベリー文学賞を代表する文学作品を読み、鑑賞する。

作品に描かれたアメリカの時代背景を理解する。

文学作品を原文で読むことで、英語表現の多様性と深さを理解する。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション：ニューベリー文学賞とHolesの著者ルイス・サッカーについて
- 第2回：Holesの描くアメリカ アメリカへの移民の歴史と大学の誕生
- 第3回：Holesの描くアメリカ 独立から南北戦争まで
- 第4回：Holesの描くアメリカ 南北戦争と奴隷解放宣言
- 第5回：Holesの描くアメリカ Baseballの誕生
- 第6回：Holesで使われている英語（1）作品に使われている英語表現について（文法）
- 第7回：Holesで使われている英語（2）作品に使われている英語表現について（語彙）
- 第8回：Holes前半のまとめ（1776年～1876年）
- 第9回：Holesの描くアメリカ 公民権運動の始まり

- 第10回：Holesの描くアメリカ 公民権運動の高まり
 第11回：Holesの描くアメリカ キング牧師との関連
 第12回：Holesの描くアメリカ 1960年代のアメリカ社会
 第13回：Holesで使われている英語（3）作品に使われている言葉遊び
 第14回：Holes後半のまとめ（1876年～1998年）
 第15回：Holesのまとめ：①作品を貫くテーマ②英語で書かれた日本の児童文との比較
 定期試験

15回の授業計画で示された授業内容と2-1. で述べた3つの学習内容を結びつけたコアカリキュラム対応表は次のようになる。表の下に◎と○の区別が示してあるが、この表から分かるように、1回の授業だけで2-1. で示した到達目標を完結させることはない。

| 英語文学 | | 項目 | | | |
|------------|-----------|--------------|----|----|----|
| | | 到達目標 ／授業回 | 1) | 2) | 3) |
| 授業科目名及び授業回 | 英語文学研究演習Ⅰ | 1 | | ○ | ○ |
| | | 2 | | ○ | |
| | | 3 | | ○ | |
| | | 4 | | ○ | ○ |
| | | 5 | | ○ | |
| | | 6 | ○ | | |
| | | 7 | ○ | | |
| | | 8 | | ○ | ○ |
| | | 9 | | ○ | |
| | | 10 | | ○ | |
| | | 11 | | ○ | |
| | | 12 | | ○ | |
| | | 13 | ○ | | |
| | | 14 | | ○ | ○ |
| | | 15 | ○ | ○ | ○ |

◎ ←到達目標に係る授業を単独の授業回のみで行う場合

○ ←到達目標に係る授業を複数の授業回にわたって全体的に行う

3. 総合的な学習の時間の指導法

総合的な学習の時間の指導法は、教職課程コアカリキュラムで次のように定められている。¹⁰

全体目標：総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うこ

とを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

（１）総合的な学習の時間の意義と原理

一般目標：総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。

到達目標：1) 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。

2) 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。

（２）総合的な学習の時間の指導計画の作成

一般目標：総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。

到達目標：1) 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。

2) 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。

（３）総合的な学習の時間の指導と評価

一般目標：総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

到達目標：1) 探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。

2) 総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

以上の点を考慮し、今回、この科目を新設するにあたり、授業計画は次のように整えた。本学では、総合的な学習の時間を10回、特別活動の指導法を5回行うことで「総合的な学習の時間の指導法」と「特別活動の指導法」の二つの領域をカバーすることとした。

授業の到達目標及びテーマ

学校教育における総合的な学習及び特別活動に関する目的や意義、基礎的知識を理解した上で、英語教員という立場での指導計画の立案や具体的な指導法について習得する。さらに、各教科や他の教職員との連携の在り方、学校における様々な集団の特徴に関する知識を身に付ける。これらの学習を通して、中学・高校における総合的な学習の時間及び特別活動の指導法の目標・必要性・実践の在り方について習得することを目的とする。

授業の概要

総合的な学習の時間及び特別活動における指導の在り方(探究的な考え方や課題解決能力の育成、自己理解の深化及び、集団対応など)の理論的枠組みを提供するとともに、学校現場での実践例などを数多く取り上げ説明する。

また、他の教科や教職員との連携や地域との関係、そして学校における様々な集団の特徴を考慮した、年間指導計画の立案、指導法、評価法について学習する。

この授業では、各回において4時間以上の授業外学修を必要とする。

4. 総合的な学習でアメリカ児童文学 *Holes* を使う

ワークシートを利用して、「英語文学 英語文学研究演習Ⅰ」で学習したことを「総合的な学習の時間」の指導で使う例(*Holes* を使って探求論文を書いてみよう。)の指導案を以下に示す。それぞれの項目に例を3つ示す。

3. 総合的な学習の時間の指導法で示した全体像を基に、ここでは、5回の授業計画を立てることとする。¹¹

「総合的な学習の時間の指導法」の全体計画(5時間)

1. 目標：自己を取り巻く社会について小説を読み解く作業を終えたら、次に、その中から問題点を探し出し、その問題解決に向けて資料集を行う。その後、発表にむけた作業を行うことで、問題解決に取り組む態度を育て、表現力を養う。これら一連の作業を行うことで、自分の生き方を考える機会と捉える態度を身につける。

2. 育てようとする資質・能力・態度

- ① 読解力
- ② 課題発見能力
- ③ 情報収集・処理・能力
- ④ 文章作能力
- ⑤ プレゼンテーション能力

3. 授業配分

- 1時間目：*Holes* の振り返りを行う。
- 2時間目：*Holes* から問題点・興味のある点を探し出し、その理由を考える。
- 3時間目：選び出した問題点について調べ物を行う。
- 4時間目：*Holes* と調べた資料を元に自分の考えをまとめる。
- 5時間目：発表(プレゼンテーション)をする。

4. 単元の評価基準(ここでは、b, c, d が当てはまるが、グループでの作業にする場合は、当然aも評価基準となる。)

| a 協働する力 | b 課題設定力 | c 情報収集能力 | d 自己表現力 |
|---|--------------------------------|---|--|
| 積極的にグループ作業に参加し、メンバーの意見を尊重しながら統一的な課題に取り組むことができる。 | 指定されたテキストを読み、的確な課題を設定することができる。 | 情報にアクセスしながら、その情報中の必要な情報を取捨選択し、活用することができる。その際、他人の意見と自分の意見を区別するようにしている。 | 調べたことや学んだ事や自分自身の考えを、わかりやすく表現するために活用することができる。 |

5. 授業展開「Holesを使って探求論文を書いてみよう。」

1. Holesを読み、興味を持ったトピックを一つ選ぼう。

1. アメリカと移民の歴史
2. 公民権運動の歴史
3. 野球について

2. 選んだトピックに関連する部分を抜き出してみよう。

1. She (=Madam Zeroni) told Elya that he should go to America. “Like my son. That’s where your future lies. Not with Myra Menke.” (Chapter 7)
2. There was no telephone, but word spread quickly through the small town. By the end of the day, everyone in Green Lake had heard that the schoolteacher had kissed the onion picker. (Chapter 26)
3. Clyde “Sweet Feet” Livingstone was a famous baseball player. He’d led the American League in stolen bases over the last three years. He was also the only player in history to ever hit four triples in one game. (Chapter 6)

3. なぜ興味を持ったのか考えてみよう。

1. アメリカは移民を積極的に受け入れてきた他民族国家であると言われているから。オバマ大統領からトランプ大統領に代わり、移民の受け入れ政策が急激に変わったようだから。
2. テキストから抜き出した部分は、110年前に起こった学校の白人女性教師とたまねぎ売りの黒人青年との恋の部分である。黒人青年サムは殺される。
3. アメリカの国民的三大スポーツとして、アメリカンフットボール、バスケットボール、野球が考えられるが、最初の二つに比べ、野球は若干違いがあると考えられる。野球の持つ特徴を探ってみたい。

4. 選んだトピックに関して、背景知識を調べてみよう。

1. アメリカが他民族国家となった歴史を調べることで、現在のアメリカの特徴（強みや課題）を考えてみる。
2. 南北戦争やその後公民権法が確立するまでの歴史を調べる。
3. 作家ルイス・サッカードが作中でプロ野球選手を選んだ理由を考えてみたい。

5. 調べた背景知識を基に考えられる仮説はどのようなものか考えてみよう。

1. *Holes* で扱っているのはヨーロッパからの移民であるが、移民の歴史を探ることで、移民を積極的に受け入れることがアメリカの活力になっているのではないだろうか。日本からの移民も受け入れている。その点を深く探ることで、当時の日本が抱えていた問題も見いだすことが出来るのではないだろうか。
2. 公民権法は1964年7月7日に制定されるが、30章に見られるような Camp Green Lake での会話 (“(…) Hey, Caveman,” said Zigzag. “You should get a whip. Then if your slave doesn’t dig fast enough, you can crack it across his back.” から想像するに、人種差別は現在も続いている問題であると考えられる。
3. 野球選手としての Clyde Livingston が作中で登場する場面は、ほんの一部であるが、野球には、アメリカンフットボールやバスケットボールに無い特徴がある。野球の持つ特徴は、ある意味、アメリカの社会を映し出しているのではないだろうか。

6. 仮説を証明するために調べ物をしよう。

1. 『ヒマラヤ杉に降る雪』（1999年のアメリカ映画）
『NHK 高校講座 地理「ここに注目！アメリカ」(2)』2018年2月2日放送
2. 『ラビング 愛という名前のふたり』（2016年制作のイギリス・アメリカ映画）
『その時歴史が動いた マーチン・ルーサー・キング』NHK 2008年11月12日放送
3. 『42 ～世界を変えた男～』（2013年制作のアメリカ映画）
『視点・論点「野球から見えるアメリカ」』NHK 2018年8月21日放送

7. 選んだトピックについて調べたものを参考に、自分の考えをまとめ、発表の準備をしよう。
最後のプレゼンテーションを行うために、次のワークシートを使用する。

序論（導入）

↓

本論



結論

参考文献

5. 最後に

以上今回の教職課程の再課程申請にあたり、大学の取り組みを一部分であるが紹介してきた。「総合的な学習の時間の指導法」は担当教員にとってもこれから指導技術を学ばなければならない部分がある。そこで、今回提示したことは、2年次で学習する「英語文学」を4年次に利用する方法である。これは、いわば、教科を越えた取り組みを行う際のヒントにもなろう。「英語文学研究演習Ⅰ」で選んだテキストの*Holes*であるが、児童文学と侮るなかれ、まず、分量が230ページあるので、これを原書で読み通すには、相当の努力が必要である。¹²また、使用語彙の難易度についても、日常語で日米のずれを感じるものがある。これを解決するには、毎回予習プリントのようなものを準備することも指導者には求められるかもしれない。これについては、すでに二つの大学で実践を試みたこともあるので、稿を改めて論じたい。

注

¹ 文部科学省初等中等教育局教職員課作成の「教育職員免許法・同施行規則の改正及び教職課程コアカリキュラムについて」は以下を参照のこと。http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/07/27/1388004_2_1.pdf (2018年9月20日閲覧)

² 『教職課程認定申請の手引き』（平成31年度開設用）【再課程認定】pp.122-124 文部科学省初等中等教育局教職員課発行

³ 前掲書 p.151

⁴ ルイス・サッカー著 幸田敦子訳『穴』講談社文庫2006年「文庫版訳者あとがき」p.332

⁵ *Holes*に関してはこの『長崎外大論叢』第22号の「英語教師のための基本文献案内(6)」を参照のこと。

⁶ 中田佳津子「Louis Sachar: *Holes* 論 — 「時間」の問題を中心に —」『梅花児童文学13巻』梅花大学児童文学会 2005年 pp.50-52は参考になる。

⁷ 主人公のお母さんは小説の中では地味な存在なのであるが、息子がCamp Green Lakeに送られる際には、筆記用具と便せんを持たせ、手紙を書くように言う。家族との絆もテーマになり得る。

⁸ 加島巧「近代日本の夜明け—ラトガース大学の果たした役割—」『長崎外大論叢第13号』2009年 p.23

⁹ Cutlers, James Elbert. Lynch-Law: An investigation into the History of Lynching in the United States. Montclair: Patterson mith, 1969 p.171 <https://ia800202.us.archive.org/33/items/cu31924024871497/cu31924024871497.pdf> (2018年9月23日閲覧)

¹⁰ 『教職課程認定申請の手引き』（平成31年度開設用）【再課程認定】 p.134

¹¹ 神奈川県立総合教育センターの開発した高等学校3年間における「総合的な学習の時間」の学習指導案によれば、ここで示したものは、2年次の「テーマ学習」に近いものだと考えている。http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/snavi/kyouzaisnavi/shidouan/kou_shidouan/ireport.pdf（2018年9月22日閲覧）

¹² 石原敏子「*Holes*と*Whirligig*を読む：「味わって読むコース」教育実践レポート」『関西大学外国語教育研究10』2005年 p.81
にも同様の指摘がある。